2021 年度さくらねこ無料不妊手術事業

行政枠アンケート　集計結果

さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」は野良猫や多頭飼育の猫に対して不妊手術を行い、猫への苦情や殺処分の減少に寄与する活動です。
2021 年度は 3,142 名の個人（一般枠）、43 団体、213 の行政と協働し、約 55,000 頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

一般枠での無料不妊手術実施数　26,314 頭
団体枠での無料不妊手術実施数　2,883 頭
行政枠での無料不妊手術実施数　25,257 頭
多頭飼育救済枠（行政枠）での無料不妊手術実施数　1,260 頭（うち犬 21 頭含む）

無料不妊手術実施頭数　総合計 ： 55,714 頭

1. アンケート概要

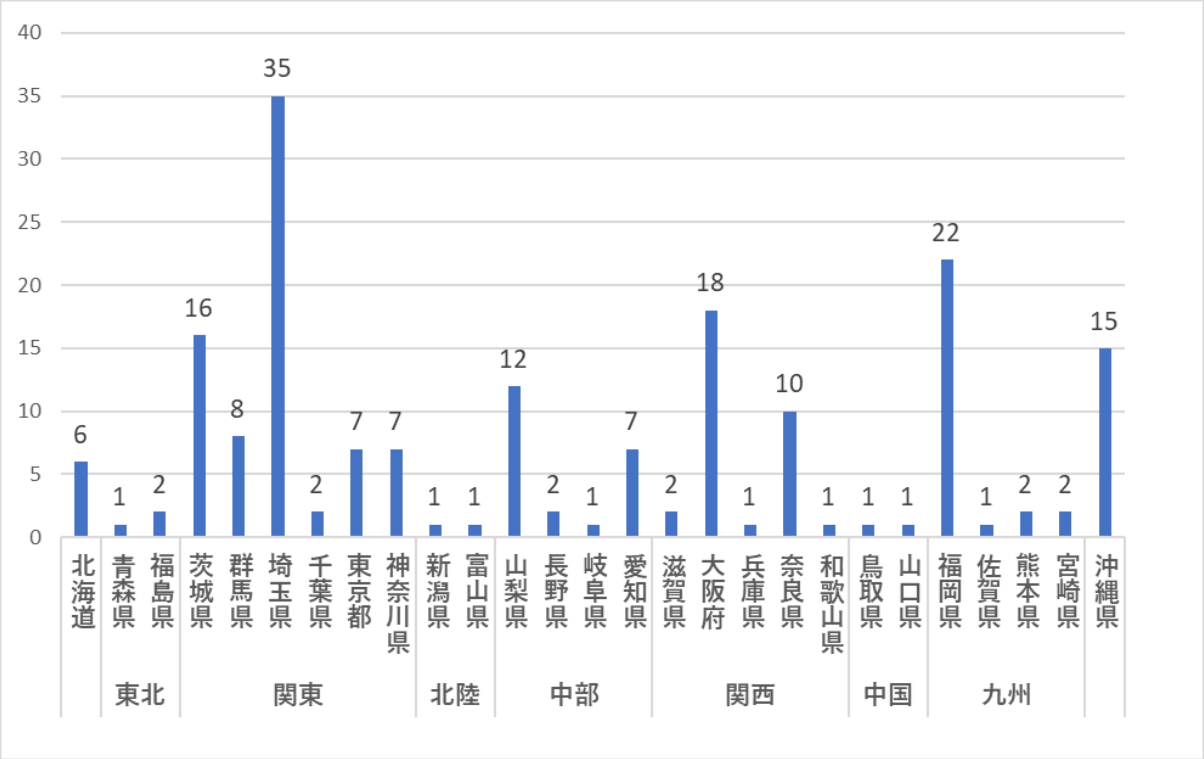
2021　年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア（行政枠）に事後調査アンケートを実施しました。
※行政枠の対象は、行政（地方公共団体）およびそれに準ずる団体です。公園管理事務局等、行政が管理する施設の管理者や、大学等教育機関も行政枠の対象となります。

・　2021 年度さくらねこ無料不妊手術チケット申請行政数　213 件
・ アンケート有効回答数 184 件

2. 団体の種類について

団体の種類	票数	%
地方公共団体（都道府県）	3	1.6%
地方公共団体（市町村）	171	92.9%
公園等の指定管理者	7	3.8%
その他	3	1.6%

3. 都道府県別団体数



※アンケート回答 184 行政の都道府県別

埼玉県が 35 件で最多です。次いで、2021 年度に地域集中プロジェクトの実施地域となった福岡県が 22 件でした。福岡県は 2021 年度に行政の登録が大きく進んだ地域で、現在は 25 行政となっています(2020 年度は 5 行政)。

地方別でみてみると、関東地方が全体の 40%前後を占める構図は変わっていません。九州が関西、中部を抜いて 23%を占めるようになりました。

4. 飼い主のいない猫対策の予算について

飼い主のいない猫対策の予算の有無と使用用途について、2021 年度、2022 年度の状況を尋ねました。両年度とも、予算を確保しているのは半数以下となっています。

2021 年度　飼い主のいない猫対策の予算の有無	票数	%
予算があった	64	35%
予算がなかった	120	65%

予算の使い道については、やはり不妊手術費用の助成が最多です。そのほか、捕獲器の購入やボランティア団体への餌代、ペットシーツ代、医療費の補助などとなっています。
不妊手術費用の助成はあくまで費用の一部であり、ボランティア団体への補助についても、行政が認めた地域で地域猫活動を行っている団体に限定しているところがほとんどです。なかには、地域猫活動のための予算を確保していたが申請がなかったため使用していない、という行政もありました。

2022 年度　飼い主のいない猫対策の予算の有無	票数	%
予算がある	78	42%
予算がない	106	58%

2022 年度の予算の使い道も、不妊手術費用の助成が最多となっています。捕獲器などの備品購入費、また、どうぶつ基金のチケットを利用する TNR 時の搬送費や物資の購入にあてるという回答や、譲渡時のワクチン接種や検査費用に使用予定という回答も見られました。
飼い主のいない猫の問題は地域の環境問題でもあります。必要な予算を確保し、行政主導で官民を巻き込んで取り組んでいくことが求められます。

5. チケットの使用について

申請者からのチケットの分配方法　（複数回答）	票数	%
ボランティアに分配した	156	85%
申請団体が自ら猫を捕獲して使用した	42	23%

チケットの使用方法　（複数回答）	票数	%
実際の TNR 作業はボランティアがすべて行った	129	70%
実際の TNR 作業は申請者自身がすべて行った	24	13%
申請者とボランティアが協働して TNR 作業を行った	47	26%

今回のアンケートでは、ボランティアとどのように協働しているかも具体的に聞きました。

多くの行政が、TNR の希望がある地域の状況確認や地元住民への説明、土地所有者との交渉などを行政が担い、実際の猫の捕獲やリリースなどをボランティアが行っていると回答しています。
人出が不足した際には、行政も捕獲・運搬を手伝うなどの協力体制が整っているところが多く、良い関係性ができていることが分かります。
行政主導で TNR を実施しているところもあり、地域の事情によって協働の実態のさまざまです。

6. 猫の引き取り数

TNR 後の行政による猫の引き取り数について　（回答数 114）	票数	%
前年と比べて減った	49	43%
前年と比べて変わらない	62	54%
前年と比べて増えた	3	3%

7. チケット申請回数

2021 年度にチケットを申請した回数	票数	%
申請なし	7	3.8%
1 回	29	15.8%
2 回	12	6.5%
3 回	16	8.7%
4 回	10	5.4%
5 回	5	2.7%
6 回	10	5.4%
7 回	5	2.7%
8 回	9	4.9%
9 回	9	4.9%
10 回	22	12.0%
11 回	22	12.0%
12 回	28	15.2%

8. 配布チケット数

2021 年度に配布を受けたチケットの数	票数	%
0	24	13%
1～10	13	7%
11～30	19	10%
31～60	22	12%
61～100	23	13%
101～200	46	25%
201 以上	37	20%

45%の団体が 101 枚以上のチケットの配布を受けました。

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	22	12%
80～99%	54	29%
60～79%	43	23%
40～59%	30	16%
20～39%	8	4%
1～19%	3	2%
使用しなかった	24	13%

64%の団体が 60%以上の使用率でした。多くの行政が高い使用率を達成していますが、使用率 20%未満は全体の 27 行政で全体の約 15%を占めています。
猫が捕獲できなかった、病院の予約が取れなかった等、さまざまな理由が考えられますが、そういった事態も計画に含めておくことが、チケットを無駄にしないコツです。

9. 対象地域

さくらねこ TNR をした猫と地域について	票数	%
行政に地域猫活動地域として認められ管理されている地域	27	15%
行政が認めた地域猫活動地域ではないが、不妊・去勢手術の実施が必要な地域	133	72%
管理している施設の敷地（公園、港湾、学校など）	10	5%
その他	14	8%

行政に公式に認められた地域猫活動地域は、昨年度より 5%低い 15%となりました。
行政枠チケットは申請主体が行政でありながら、行政が地域猫活動を認めていない地域での使用が 7 割を超えています。

TNR を行った場所（複数回答）	票数	%
住宅地	153	83%
公園	48	26%
港湾	12	7%
学校	2	1%
公共施設	12	7%
その他	48	26%

10. さくらねこ TNR を実施した猫の変化

TNR を実施した地域の猫に関して（複数回答）	票数	%
子猫の出産が減った	141	77%
猫の性格が穏やかになった	48	26%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	51	28%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	29	16%
猫の健康状態が良くなった	23	13%
その他	24	13%

その他は、「さくらねこ TNR を始めたばかりで不明」という回答が多く、「効果検証に至っていないが、実施した地域からの苦情は届いていない」という回答もありました。

11. 新たな捨て猫の数

TNR 後の新たな捨て猫の数について	票数	%
捨て猫が減った	36	20%
捨て猫の数は変わらない	13	7%
捨て猫が増えた	2	1%
わからない	133	72%

12. 住民や猫ボランティアとの関係の変化

住民や猫ボランティアと申請者（行政側）の関係は	票数	%
良くなった	119	65%
変わらない	65	35%
悪くなった	0	0%

「悪くなった」と回答した団体はありませんでした。65%の団体が「良くなった」と回答しており、「さくらねこ無料不妊手術事業を始めたことで、猫ボランティアが行政の努力を認めてくれるようになった」「住民が抱えている問題に対して、町とボランティア団体で連携しながら解決することができた」「猫に対する行政側の対応が明確化され、住民やボランティアから一定の理解を得られるようになった」という報告があがっています。

13. 地域住民との関わりの変化

TNR を実施した地域住民との関わりの変化について（複数回答）	票数	%
住民の理解が得られた	89	48%
苦情が減った	87	47%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	56	30%
協力してくれるひとが増えた（できた）	79	43%
地域の人に感謝された	57	31%
猫を可愛がってくれる人が増えた	22	12%
その他	3	2%
変わらない	24	13%

14. 今後の課題

今後の課題や問題（複数回答）	票数	%
人手不足	107	58%
資金不足	75	41%
捕獲のやり方	46	25%
地域住民との調整	104	57%
活動団体との調整	59	32%
その他	9	5%
特になし	17	9%

15. 飼い猫の捕獲について

2021 年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	8	4%
いいえ	176	96%

2021 年度の本事業で飼い猫を間違って手術して問題になった	票数	%
はい	0	0%
いいえ	184	100%

8 団体（4%）で飼い猫の捕獲がありましたが、手術にまで至ったケースはありませんでした。

16. 所感

今回、行政枠無料不妊手術事業を活用して	票数	%
大変良かった	127	69%
良かった	42	23%
普通	15	8%
悪かった	0	0%
大変悪かった	0	0%

92%もの団体が「大変良かった」「良かった」と回答しており、多くの団体が無料不妊手術事業の効果を実感しているといえます。15 団体が「普通」と回答していますが、そのすべてが「開始したばかりで現時点では判断できない」「2022 年度から開始予定のため」等、判断すべき実績がないという理由でした。

17. 来年度に向けて

来年度も行政枠無料不妊手術事業を	票数	%
活用したい	174	95%
活用したくない	0	0%
検討中	10	5%

「活用したくない」と回答した団体はありませんでした。
「検討中」と回答した 10 団体は、「相談件数が少ないため」「TNR の実施には地域の理解と容認を得る必要があるため」「異動によって担当者が変更となり、新しい体制の中で取り組めるか不安」「業務が増えることで通常業務に支障が出る恐れがあり、人員や予算、業務などに余裕ができたら再度検討したい」といった理由を挙げています。

18. ピックアップコメント

【地域住民からの声や、地域住民との関わりにおいて気づいた変化】

- 飼い主のいない猫に関する相談に対して、さくらねこ TNR 事業を案内することで、住民の方々のご意見に対してより具体的な解決方を提示できるようになり、苦情が激減した。

- 市独自で TNR 費用の補助金を交付しているが、予算の上限もあり、継続的なサポートを行うことが難しかった。しかし、動物愛護推進員とともにチケットを利用させていただいたおかげで、TNR について継続的なサポートを行うことができ、住民やボランティアと良好な関係を維持できたと考えている。

- どうぶつ基金の事業に参加して 2 か月後に地域ボランティアグループが発足し、協働で地域猫活動を推進することができた。

- 多くの未手術の猫がおり、たびたび苦情が寄せられていた地域でも、地域住民の協力を得ることができ、ようやく TNR 活動に着手することができた。

- 住民からの猫の相談に対し、ボランティアの協力のもと真摯に向き合うことで、猫嫌いな方も意識を変えて猫に向き合ってもらえることが増えてきた。ボランティアが TNR 活動をする際、協力してくれた方もいた。これからも住民と猫が共存し、住みやすい町づくりをボランティアと協力して行っていきたいと考えている。

【どうぶつ基金にご寄付をいただいた皆様へ】

- さくらねこ無料不妊手術事業のおかげで、なかなかできなかった不妊手術をすることができ、根本的な解決ができるようになりました。悪戯や糞尿、発情期の鳴き声等、野良猫にとっては自然な行動ですが、人間の都合によって迷惑な生き物とされてしまっています。また、優しく野良猫を見守る行動をしている人たちが、地域の人たちから、エサやり行為は迷惑行為のように言われるケースも少なくありません。TNR 活動に取り組むことによって、野良猫が地域の大切な可愛い猫として見守ってもらえるよう引き続き取り組んで行きたいと思っています。

- 近年増えつつある猫の苦情は、飼い主のいない猫によるものが多数を占めており、いずれも解決までの指導は町単独では難しく、保健所を案内するほかありませんでした。町内の動物愛護ボランティアよりどうぶつ基金について紹介を受け、本町も参加することを決めました。飼い主のいない猫に関する対応が難しいなか、このような事業に参加させていただけたことにはとても感謝しております。本当にありがとうございます。

- 年々、猫に関する相談が増えていくなかで、行政としてできることに頭を悩ませておりますが、さくらねこ無料不妊手術チケットを活用した事業を実施できることは、地域の猫に関する問題解決の糸口になっており大変感謝しております。社会情勢が不安定ななか、このようなご寄付をいただいていることを重ねて御礼申し上げます。

- はじめは「さくらねこ」を知らなかった住民に誤解を受けることもありましたが、今では認知が広まり、「わが自治会でもさくらねこを行いたい」という声のもと、自治会によって見守られる猫が誕生しました。これも皆様からの温かいご支援があり、継続的な取り組みができた結果によるものだと感謝申し上げます。

- 「猫を助けてあげたい」等の市に対する様々なご意見に寄り添い、TNR を一つの術として提案させていただけることは、担当として大変ありがたく感じております。

19. 総括

- 2021 年度は 213 の団体に行政枠チケットを発行しました。昨年度から 42 団体の増加です。登録団体数も 99 団体増え、2022 年 3 月末時点で 357 団体となっています。登録増加の背景には、「さくらねこ無料不妊手術事業」に参加して効果をあげている近隣市があることや、行政に事業への参加を要望するボランティアが増えていることが影響していると思われます。
  「さくらねこ無料不妊手術事業」の理想のかたちは、空白地域がなくなることです。
  例えば、A 市は TNR 事業に参加して一定の効果をあげているが、隣の B 市が餌やり禁止など誤った指導をしている場合、B 市→A 市に餌をもらえなくなった猫が流入するといった事態が起こります。B 市の野良猫は少なくなるでしょうが、それは B 市が自らの義務を放棄し、A 市に責任を押し付けているにすぎません。だからこそ、都道府県全体で参加し空白地域をなくすことが望ましいのです。
  開始から 5 年経ち、行政枠は転換点を迎えつつあります。クリアすべき課題はありますが、全国すべての行政が参加している状態を目指し、今後も取り組んでまいります。

- 今回のアンケートでは、新たに「飼い主のいない猫対策の予算の有無」について尋ねました。
  2021 年度は 35%、2022 年度は 42%の団体が「予算がある」と回答しており、主に不妊手術費用の助成に使用されています。使い勝手が悪い、上限に達すると終了してしまう等の問題はありますが、行政の助成が拡充されると TNR 活動はさらに拡大します。
  反面、両年度とも半数以上の団体が「予算はない」と回答しています。何とか予算を取ろうと大変な努力をしたにも関わらず却下される、そんな行政担当者の嘆きも聞かれます。実績に基づいた信頼性の高い資料を準備する、TNR の効果について広報活動を強化するなど、こういった面でのバックアップにも力を入れる必要があります。

- 行政枠無料不妊手術事業を活用して「大変悪かった」または「悪かった」と回答した団体はありませんでした。15 団体が「普通」と回答していますが、その多くは、利用を始めたばかりで効果が測定できていないというものです。
  一方、「大変良かった」「良かった」と回答した団体からは、住民からの苦情が明らかに減ったという声のほか、「餌やりさんのマナーの向上や地域住民の理解が得られた」「地域住民が行政の取り組みを理解し身近に感じてくれるようになった」等の声が寄せられています。
  協働するボランティアの金銭的負担が減ったことを喜ぶ声も多く、また「行政枠を使用することで、活動するボランティアと管理者が守られている」という厳しい現場を思わせる回答もありました。

- 「来年度も行政枠無料不妊手術事業を活用したいか」の質問には、実に 95%もの団体が「活用したい」と回答しています。
  いちばんの理由は、住民やボランティアからの反響が大きいこと、そして、まだまだ TNR が必要な地域があることが挙げられます。事業に参加したことで TNR の重要性が知られるようになり、協力してくれる住民が増えたという団体もありました。ある行政からは、無料不妊手術事業で「中長期的に飼い主のいない猫の増殖を抑えることができると信じている」との言葉が寄せられています。
  生まれてすぐに殺される命をゼロにし、一代限りの命を見守ること。どうぶつ基金も、さくらねこ TNR で必ず実現できると信じています。

- 2021 年度、どうぶつ基金は自ら「どうぶつ基金病院」を期間限定で全国 3 地域に開院しました。実地地域となった福岡県と宮崎県では、これをきっかけに事業に参加する行政が増加。新型コロナウイルスの感染拡大による影響が続くなか、官民協働による TNR 活動が 1 年間にわたって実施され、福岡県では累計 3103 頭、宮崎県では累計 3,274 頭のさくらねこが誕生しました。
  全国的に見ても、行政とボランティアの協働が進んでいる地域では TNR のスピードが速く、効果が実感しやすいことから、苦情や住民同士のトラブルが減り、地域の雰囲気も良くなります。
  しかし、TNR は一度やったら終わりではありません。実施後の最大の問題は、いかにしてその状態を継続するかです。そのためにはボランティアや地域住民など、民間との連携が欠かせません。行政には、地域の特性に合った民間との連携体制を作り上げることが求められます。

- 猫の引き取り数については、49 団体が「引き取り数が減った」と回答しています。飼い猫か飼い主不明猫か、幼齢猫か成猫かなどの内訳が不明であるため、TNR の効果を検証するには情報不足ですが、飼い主不明猫の引き取り数、そのなかでも幼齢猫の引き取り数の増減を見ていくことは重要です。
  どうぶつ基金が推奨する「さくらねこ TNR（TNR先行型地域猫活動）」の大きな目的の一つは、殺されるために生まれる命を減らすことです。つまり、飼い主不明の幼齢猫の引き取り数が減少している＝TNR の効果が出ているということになります。次年度は、飼い主不明の幼齢猫の引き取り数やロードキルの件数など、さらに一歩踏み込んでデータを収集し、さまざまな観点からより細かな検証を行った有用なデータを提供していく必要があると考えています。

- 今後の課題を見てみると、多くの行政が人手不足に悩んでいることが分かります。どの行政も飼い主不明猫の対策に人員を割くことは難しく、担当者は他の業務を抱えながら踏ん張っている状況です。来年度の活用について、「異動によって担当者が変更となり、新しい体制の中で取り組めるか不安」「業務が増えることで通常業務に支障が出る恐れがあり、人員や予算、業務などに余裕ができたら検討したい」といった回答があるなど、事業の継続について行政特有の壁を感じる結果となりました。

- 行政枠無料不妊手術事業に参加する最大のメリットは、飼い主不明猫に無料で不妊手術を受けさせ繁殖を抑えることで、市民からの苦情に対応できる点です。しかし、アンケートを見てみると、それ以外にもさまざまなメリットがあることが分かります。
  「TNR 活動を通じて行政とボランティア団体のコミュニケーションが密になり、イベント等に参加してもらうなど深く関係を持てるようになった」「ボランティアとの情報共有で、多頭飼育案件を未然に解決したり、高齢者など情報収集手段をもたない市民に対する支援を行うことができた」という声のほか、もともとボランティアと良好な関係を築いていた行政からは「これまで、行政として資金面での援助ができなかったが、無料不妊手術チケットを配布することによってボランティアの負担を減らすことができた」といった声も聞かれました。協働の仕方はそれぞれですが、ボランティアとの連携を強化することができれば、さらなる相乗効果が期待できます。